

第69号
 発行日:令和3年10月1日
 発行所:東京青山同窓会事務局
 〒111-0032
 東京都台東区浅草 3-8-2-1101
 工藤 義夫 (74回)
 e-mail:info@tokyo-aoyama.org
 TEL:090-1704-2413
 HP:https://www.tokyo-aoyama.org/
 発行者 日下部朋子 (82回)

東京会報

東京青山同窓会
 -東京青山同窓会年間維持費-
 1口1,000円/2口以上(年間)
 会計幹事:川上康夫(79回)
 高山佳郎(83回)
 振込先:極力①でお願いします。
 ①郵便振込口座 00150-9-4074
 加入者名 東京青山同窓会
 ②三井住友銀行京橋支店 警 8430640
 東京青山同窓会 会計幹事 川上康夫

東京会長 挨拶



佐藤 信秋 (74期)

昨年来のコロナ禍は、本稿執筆時点では未だ厳しい状況が続いています。

我が新潟県は、花角知事も奮闘して、ワクチン接種を随分加速してきています。何とか収束に向かってもらいたいものです。会員の皆様には、故郷新潟に帰省できず、家族の皆様とここ1~2年会えてない、という方も多いと思います。ワクチンや治療薬の普及と共に、1日も早く、コロナ禍を収束に向かわせて、来年は母校創立130周年を皆で盛大に祝いたいものです。恐縮ながら、謹んで、皆様からのご寄付もお願いしますね。

この厳しい状況の中で行われたオリンピックでは、我が国はかつてない好成績を収めることができました。パラリンピックでは、競泳で阿賀野市の14歳、山田美幸さんが銀メダル2個と、障害者マラソンで村上市の永田 務さんが銅メダルを取るなど、新潟県勢も活躍していて嬉しいですね。

会員皆様のご健勝とご活躍を心から祈念しております。 2021年9月3日

百年目の試練 ; 日常に戻れるのは一体いつ??

**同窓会で
“ますらお”
まだ先

**一人ひとりが
サバイバル**

**なお
接種後も
ブレイクスルー
追加接種も
注意**

コロナ感染爆発 → 災害医療

不都合な真実
 年中緊急事態
 <感染の3経路>
 接触・飛沫・空気(エアロゾル)
 アルファ株、ベータ株、ガンマ株

コロナ苦戦の1年半~ 先行き見えぬ不安
 言葉の響かぬ政治 ~ 根拠なき安心安全
 五輪霧中・自粛疲れ・ワクチン頼みのスガさん、
 コロナに屈し万策尽きた一年草 ~ 夢が現か幻か
 策士が策におぼれ。得意の人事で散る。アベ負の遺産で損な役回りも。
感染も自宅放置~ 自助ニッポン → 衆院選
接種後も感染防止 ~ 各自ロックダウン

ホットな話題“ニュースの顔”再び

【大越健介さん新ニュースキャスター】
 ~10月からTV朝日・報道ステーション~

NHKを6月30日付で定年退職して9日後、TV朝日が発表。「平たい言葉で伝えることを心がけていく」と抱負。幅広い知識と取材経験、親しみやすい語り口で民放報道番組で新たな顔に。「もの言うキャスター」として時の政権も恐れる番組になるか?

◆大越 健介 氏
 青山88期、NHK記者、
 NW9 / サンデースポーツ/
 NHK特集等を担当。
 東大野球部で投手。



東京青山
ホームページ
も見てね
~更新済~

URL
<https://www.tokyo-aoyama.org/>

青山
 来2022年は創立
130年
 <コロナ乗り越え>
青陵

《お知らせ》

- ・2021総会 & 歓迎会; **中止**
- ・カジュアル丈夫会 & 火曜会 **中止**
- ・ミニ臨時総会 & 幹事会・予定 (別途案内)

<会計担当;川上康夫(79期)> 年会費2千円の納付先
 ①郵貯銀行 ; 00150-9-4074 または
 ②三井住友銀行京橋支店・普通 8430640

問
合

<事務担当> ~ よろずご連絡など ~
 事務局長 ; 工藤義夫(74期) 090-1704-2413
 info@tokyo-aoyama.org / plutarchoshannibal@yahoo.co.jp

来年・2022年は <母校創立130周年> ... 三世紀にわたって!

<創立>
1892(M25)



♪青陵♪
(中学校歌;1922)

1954(S29)焼失
↓ 同年
青山同窓会発足
↓<1~4期工事>
1960(S35)完工

♪女子入学♪
(1950年; 61期・数名)



<現校舎>
1999年~
(平成11)

男女比;半々
全県一区



さらに未来へ

“新人(129期)”寄稿1 ~よろしくお願ひします~

<各組・幹事9名>

かいらづか あんね <貝良塚安音~1組クラス幹事>

第129期1組クラス幹事の貝良塚安音です。この春、慶應義塾大学看護医療学部に入學し、助産師を目指しています。現在私の学部は対面授業がほとんどない状況ですが、看護の専門科目を学ぶのはとても楽しいです。特にグリーフケアや臨床心理学への関心が強く、大学では看護や助産だけにとらわれず、幅広く学びたいと思っています。高校在学中はフェンシング部に所属し、OB・OGの方からのご指導や全国大会への出場、また3年次は青陵祭(代替イベント)の連合長を務めさせていただくなど、様々な体験をする機会をいただきました。昨年度は残念ながら新型コロナウイルスの影響で大会や青陵祭は中止となりましたが、恵まれた環境での3年間は私にとって宝物です。その折々で、同窓会の皆様より賜りましたご支援に対し、深く感謝申し上げます。今後は青山同窓会の一員としてタテとヨコの繋がりを大切にしながら同窓会活動に携わっていく所存です。どうぞよろしくお願ひいたします。

かねこ しん <金子新~2組クラス幹事>

129期2組クラス幹事の金子新です。一橋大学商学部在籍しています。大学では特に経営の勉強に力を入れて取り組み、目標である経営者に近づくため日々研鑽を重ねております。将来は新潟に利益を還元できるような企業を作りたいと考えています。現在依然として新型コロナウイルスの猛威はおさまっておりません。しかし、この自粛ムードで空白の時間ができやすい状況は無為に過ごしやすいものの、時間の使い方次第では様々な経験を積むことが出来る、我々新潟高校卒業生のあるべき姿である丈夫の真価が問われる逆境であると考えます。高校時代はバスケットボール部に所属し、大学では学生運営の集団の組織力と日本一を目指すモチベーションの高さに感銘をうけラクロス部に入部、刺激を受けながら挑戦する日々を送っています。最後になりますがこれから青山同窓会の一員として尽力する所存です。よろしくお願ひいたします。

やまかわ しゅうすけ <山川周祐~3組クラス幹事>

第129期3組クラス幹事を務める山川周祐です。高校時代はバドミントン部と生徒会執行部に所属。今春から、東京大学文科一類に在籍していますが、新型コロナウイルスの流行による影響はいまだに大きく、週に一回程度大学に行き、それ以外は住んでいる寮で他の寮生と交流を深めるという日々を送っております。

大学では、法学や政治学といった文系科目を中心に勉強しつつも、理系科目に興味のある分野の授業を履修してみたりと、教養を幅広く学んでいる最中です。コロナウイルスの流行によりうまくいかないことも多く、なかなか思い通りの大学生活を過ごせない状況が続いていますが、そんな状況だからこそ新潟高校の同期との繋がりを大切に日々を過ごしたいと考えております。まだまだ至らぬ点も多いかと思いますが、129期幹事一同で協力して同窓会に貢献できるよう尽力する所存ですので今後ともよろしくお願ひいたします。



もりかわ ひかる <森川 洸~4組クラス幹事>

第129期生4組幹事を務めることとなりました、森川 洸です。今春から、横浜国立大学都市科学部環境リスク共生学科に在籍しています。高校時代は、男子バレーボール部に所属していました。初心者で始めましたが、仲間同士での協力の大切さ、壁を乗り越えていく力など多くを学ばせて頂きました。現在大学では、対面の授業が徐々に戻ってきており、感染対策を徹底しつつ大学に通える状態になっています。新型コロナウイルスの流行を通して、今後の大学生活では、今までとは異なった形態での活動が増えしていくと考えられます。そのような変動に対応しながら、大学生しか出来ないことと考えています。微力ではありますが、今後の同窓会活動のお力になればと思っております。よろしくお願ひ致します。



しげや ゆみ <澁谷 祐美~5組クラス幹事>

第129期5組クラス幹事の澁谷祐美です。女子硬式テニス部に所属していました。今春、早稲田大学・商学部に進学しました。昨年度から新型コロナウイルスが猛威をふるい、人々の生活・健康に影響を及ぼしています。早稲田大学では、オンラインと対面を併用しての授業が行われています。人と話すことが好きな私にとって、オンラインでの活動は少し物足りない気持ちを感じずにはいられません。しかし少しずつではありますがワクチンや簡易PCR検査が発展してきたおかげで、対面でのサークル活動もできるようになりました。また大学生になって、高校の友達の大切さに改めて気づきました。上京して何一つ分からない土地での新生活で、始めは不安だらけでしたが、SNSを通じて高校の友達と連絡を取り、助け合って乗り越えることができました。まだまだ先の見えない世の中ではありますが、今だからこそできることを大切に大学生活を楽しんでいきたいと思ひます。

そが ひなこ <曾我日向子~6組クラス幹事>

129期3年6組クラス幹事の曾我日向子です。東京理科大学の工学部に在籍しています。高校時代はボート部に所属していました。先輩や仲間、後輩に恵まれ柔軟な三年間を過ごすことができました。新型コロナウイルスの影響により、オンライン授業が主な大学生活ですが、新しくできた友人と共に充実した日々を過ごしています。大学では軽音サークルと化学研究会に所属しています。やはりコロナウイルスの影響でほとんどの活動がzoomを使用した制限が多いものですが、たくさんの人から刺激を受けることができている。まだまだ思うような日常生活を送ることは難しいですが、ワクチン接種開始など安全な未来に向けた前向きな活動も増えてきているように感じます。前向きな気持ちを忘れず様々なことに挑戦したいです。最後になりますが129期の幹事で力を合わせ、さらに活気あふれる青山同窓会の活動に貢献していけたらと考えています。よろしくお願ひします。

いまお このか <今尾 好花~7組クラス幹事>

129期の3-7のクラス幹事となりました今尾好花です。今は横浜国立大学の経済学部在籍しています。高校時代は女子硬式テニス部に所属していました。初心者ではありましたが、とても有意義な時間を過ごすことができました。新潟高校での生活は行事や部活を通して、友達とたくさん楽しい時間を送ることができました。また、互いに切磋琢磨できる仲間に出会えたおかげで今の大学生活があります。特に、大学受験を共に乗り越えた3-7の皆には本当に感謝しています。そして今私は、アメリカンフットボール部Mastiffsに所属して熱心に頑張っています。関東1部リーグに所属している強豪チームなので、ぜひ応援していただけたら嬉しいです。コロナ禍で厳しい状況がありますが、新しく始まった大学生活を楽しみたいと思ひます。

なかしず ゆうき <中静 勇輝~8組クラス幹事>

129期8組幹事を務める中静勇輝です。東京大学理科二類に所属しています。現在は前期教養学部で幅広い分野の学問の基礎を学んでいます。入学当初からオンラインでの授業が続くなど思い描いていた大学生活とは程遠いですが、自分をゆっくり見つめ直す良い機会だと捉え、様々なことに触れながら自分が本当にやりたいことを見つけていきたいです。高校では水泳部に所属していました。在学中には、水泳部のOB会である青山水友会の先輩方を始め同窓会の皆様から様々なご支援を頂き、とても感謝しております。特に昨新型コロナウイルスの影響で高校最後の大会が中止となった際、OBの方々から特別に激励会を開催して下さったことは、その後気持ちを切り替え受験勉強に励む上でとても大きな力になりました。厳しい状況ではありますが、人との繋がりを大切に、同窓会活動に貢献できるよう努めて参ります。今後ともよろしくお願ひ致します。

いずみ まさし <泉 賢 ~ 9組クラス幹事>

第129期9組クラス幹事を務める泉賢と申します。今春から横浜国立大学経営学部経営学科に在籍しています。高校時代は野球部に在籍し、甲子園出場を目標に日々暗くなるまで白球を追いかけ、最高な仲間たちと共に有意義な高校生活を送ることができました。現在は昨年から続く新型コロナウイルスの蔓延の中、大学でも対面授業は少なくオンライン授業が主となっています。しかし、今年は昨年度よりも規制が緩和され、サークル活動や対面授業が一部ではありますが解禁され、新天地でも交友関係を築き始めています。アルバイトも始め、働くことの楽しさも難しくも感じつつ、少しずつ社会に出る準備が進んでいくんだなと実感しています。現在は楽しい大学生活を送ることができているので、この生活を継続したいと思うと共に、自分の夢の実現に向けて日々精進していこうと思ひます。今後は青山同窓会の一員として、歴史を途絶えさせないように後輩へ引き継いでいく所存です。至らない点は多いかと思ひますが、どうぞ宜しくお願ひ致します。

“青山 青陵 丈夫”

注)新人寄稿2(各組有志)は次回70号に掲載

“～2021年報道等【児玉裕一★旬のMVクリエイター】” 編集:工藤義夫(事務局)

<映像・ミュージックビデオ>

椎名林檎のMVや、カンヌなど世界3大広告グランプリ受賞などの表現力

“児玉裕一” <青山102期>

2017/3/2 HIGHFLYERS/#22 voi.1, 他

◆児玉ファンの青山生からの紹介◆

児玉裕一氏はいま非常に高い評価を受ける映像監督で、あの『リオ五輪閉会式の映像部分』で見られる通り、テクノロジーを巧みに用いた「未来的」なイメージがあります。

一方、実写中心のMV作品も素晴らしく、個人的に大好きな「椎名林檎」「長く短い祭」/今最も注目されるミュージシャン「藤井風」の、まるで映画のような詩情を持つ「帰ろう」/長年タッグを組んできた「東京事変」の、伝統美鮮やかな「緑酒」・・・など、次々と世を賑わす映像を送り出しています。

インタビューで鳥屋野の自然科学館へ言及していますが、「二時間だけのパカンス」<宇多田ヒカル feat.椎名林檎>は「これは自然科学館の雰囲気」と感じます。全てYouTubeで見られますので、ぜひご覧になってください。～ T.K. ～

「RIO」×「ARIGATO」「OBRIGADO」

2016・リオ五輪◆閉会式



★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

“児玉裕一”プロフィール

・ミュージック・ビデオやCMなどの演出を手がける映像ディレクター、vivision代表。

・数多くのCMや椎名林檎、東京事変、安室奈美恵、Perfumeなど様々なアーティストのミュージック・ビデオを手掛ける映像作家で、実写にCGやアニメーション等様々な技術を違和感なく自然に組み合わせる映像が得意。それ以外にもVJやライブの演出も行う。



新潟高校卒業後、化学者を目指し東北大学理学部に進学も、2年生で映像に興味を持ち、独学で映像制作を学び作品作りを始める。大学卒業後、広告業界に入れば映像関係の仕事ができると考え、東京の広告代理店に就職。しかし新聞・雑誌の広告スペースの仕入れを担当する媒体部に配属、制作部署に行かず、1年で退社しフリーに、個人でモーション・グラフィックスを手掛ける。

一旦、学生時代の仙台へ戻り、地元ローカルの若者向けテレビ番組やCMの制作に携わる。企画から撮影編集テロップまで、一人でやって当たり前というDIYな現場で経験を積んでいる時、「SPACE SHOWER TVで番組をやらなにか」という話で、再び東京に拠点を移し番組制作を担当。そこで知り合ったレコード会社の人間からミュージック・ビデオの仕事のオファーを受けるようになり、以後、フリーディレクターとしてミュージック・ビデオやCMなどの演出を手がけるようになる。2006年以降、CAVIAR所属、2008年、世界三大広告賞のインターネット全部門でグランプリ受賞。2013年 vision代表。2016年のリオ五輪閉会式での日本のアニメを生かした演出も。

◆児玉裕一 | 椎名林檎のMVや、カンヌなど世界3大広告賞総なめ...◆



映像ディレクターの児玉裕一さんインタビュー第2回目は、幼少期から大学時代、そして一流企業に就職したにも関わらず、わずか1年で退職するまでをお聞かせ。新潟市で生まれ育ったインドア派の児玉さんが、幼い頃に心を奪われたのは自然科学館でした。将来は科学者になると信じて疑わなかった少年が、大学時代のマッキントッシュとの出会いによって映像制作に目覚め、大手広告代理店の電通に見事就職。しかし1年で辞めてしまったその理由とは？今の原点となった学生時代のクリエイター活動の想い出もたくさん伺っています。

<CONTENTS>

- 1.椎名林檎等のMVや、カンヌなど世界3大広告賞グランプリ受賞の「UNICLOCK」も話題に。児玉裕一の「より伝わる表現」とはどこから来るのか
- 2.夢は科学者だったが大学でクリエイターの道へ。CMを作りたくて電通に入るも1年で退職。フリーになるまでの視界と信念を語る
- 3.東北放送で番組制作し、スペシャの仕事の機に再上京。ブレイクポイントとなったスネオヘアとのMV制作や、椎名林檎との出会い
- 4.夢は映画を撮ること。スピルバーグ制作総指揮の「バック・トゥ・ザ・フューチャー」のように何度観ても面白い作品を作りたい。

自然科学館で見た景色が今の作品にも影響を。大学時代の奇をてらった作品から電通1年目にひどく叱られた越権行為まで、笑いを交えながら赤裸々に



— 新潟県新潟市のご出身だそうです、どのような幼少期を過ごされたのですか？

父はラジオ番組のディレクターで母は専業主婦という普通のサラリーマン家庭で育ちました。姉は今も京都に住んでいます。僕は子供の頃は工作が好きで、いつも何かを創って遊んでいました。だからといって特に器用だったわけでも几帳面だったわけでもなく、プラモデルにマジックを使って色塗りしてしまうような子供で、ガンダムの目をグリグリ塗ってしまっていました。どちらかといえばインドア派で、勉強はするのが当たり前だと思っていてちょっと成績が良かったので、学校では委員長系でした。小学校低学年の頃は、ファミコンやゲームウォッチが流行っていて合言葉は喋っていましたね。友達の家のパソコンで、完成音声を録音しているのを見せてもらった時は驚きました。あとは、新潟市にある自然科学館(新潟県立自然科学館)に通っていました。

— 自然科学館には何があったのですか？

自然科学から化学/物理/技術などが全部揃っていて、その展示物の見せ方がとても面白かったです。実寸大の森の断面図模型とか、土の中まで見えるようになっていて、そこに剥製のモグラが

いたりするのを観るのが凄く好きでした。展示物のサインだったり、ボタンだったり、ステンレスの什器だったり、鳴っている音だったり、あの頃科学館で見たことや体験したことは、今僕が関与している作品のセットにも影響していると思いますよ。その科学館には、他にも巨大な振り子とか、プラネタリウムとか、騙し絵とかがいっぱいありました。東京の九段下にある科学技術館が、昭和の香りがして少し雰囲気に近いです。映画「太陽を盗んだ男」で菅原文太さんと沢田研二さんがもみ合う最後のシーンと、「シン・ゴジラ」のラストシーンは、どちらも科学技術館の屋上で撮影されていますよね。館内の星がダークと並んでいる壁が格好いいんです。今でも子供を連れて行きます。

— 小さい頃、将来なりたい職業はありましたか？

科学者になると当然のように思っていました。科学雑誌を買って帰っては得意気になっていましたし、10歳の時に自然科学館でどうしても欲しいって買って帰った「MEGA 科学大辞典」という本は今も持っています。クローンや培養エネルギーの話とか、今にして思うと辞典じゃなくて読み物なんですけど、図解が大好きでビジュアルが面白いと思って眺めていました。今見ると名のあるイラストレーターの方がビジュアルを提供しているんです。科学とアートを上手く結びつけていて、これを創った人はセンスあると思いました。でもまあやっぱり一番のポイントは、表紙が当時珍しかったホログラムなこと(笑)。魅了されちゃったんですよええ。



— やはりそこに児玉さんの原点があるんですね。

高校時代も科学者を目指して、大学は東北大学の理学部化学科に進学されたそうですね。

絶対理系だと思っていて、大学では触媒反応の研究をしていました。エネルギー反応について色々研究して一応卒業はしたのですが、途中からほころびが出始めるというか、段々学校の授業についていけなくなると同時に、好きなのは、NASAのロケットやスペースシャトルのデザインの方だったと気づいて。映像にも興味が出てきて、周囲に誰もやってる人がいなかったのですが、マッキントッシュが生協で売っているのを見て、「これだ！欲しい！」と思って、Power Macintosh 8100っていう縦型の白いやつをかなり無理して買いました。大学1年生の頃ですね。

— なるほど。その頃から触媒の研究よりも、コンピュータの方に傾倒していったのですか？

いや、傾倒というほどでなく、友達とアート系のサークルに入り面白そうと思ったことを肅々とやっていた。今となるとちょっと恥ずかしいんですけど、意味のない物を「探しています」というビラを作って街に貼ったり、道路の真真中に食卓を置いて朝食を食べる風景を写真に撮ったり、全然魚のいな公園の噴水で買った魚を釣り上げるの様子を撮ったり…。仙台に国分町っていう繁華街があるんですけど、そこに友達から借りたビデオカメラを持って行って、「東北放送で一す。景気はどうですかー？」とか酔っ払って人々にインタビューするなんてこともしてましたね。仲間の中には写真の現像を教えてくれる人や、音楽を作っている人もいて、自分も何かやらないとな、と思える環境でした。

— 科学への興味はしぼんでいった感じですか？

そうですね。科学的なデザインやロマンティックな部分は、ずっと変わらず大好きでしたけど。そして「広告批評」や「デザインの現場」などの雑誌や本を読んでは、東京の文化のイメージを凄く膨らませて

“2021年・報道から【五輪めざすイダテンの医師 1/2】” 編集;工藤義夫(事務局)

医師免許持つ中距離ランナー “広田有紀” 東京五輪選考会

<青山122期> 2021.6.27 スポ報知

◆2刀流～イダテン医師～東京五輪挑戦◆
日本陸上選手権五輪代表選考会・大阪
<女子800m・自己新!で2位>
人見絹江以来の五輪ならずも手応え。



<ゴール; 1位・ト部 / 3位・田中 / 2位・広田>

◆陸上 日本選手権 最終日(27日、大阪・ヤンマースタジアム長居)

女子800メートル決勝で、秋田大医学部出身の広田有紀(新潟アルビレックスRC)は、2分4秒18の自己ベストをマークし、2位の表彰台に立った。

序盤から積極的にレースを進め、600メートル付近までは首位を快走。ト部蘭(積水化学)に逆転されたが、田中希実(豊田自動織機TC)を0秒29差で抑えて2位に入った。「600メートルまで先頭というのは想定していないパターンだった。集中力が続けば勝てるかなと思ったけど、最後バテちゃって。一番を狙って臨んだから、(ト部に)差されて少し悔いは残る」と振り返った。

秋田大医学部を卒業。国家試験にも合格しているが、研修医にはならず、出身地の新潟で競技を続けてきた。医学生時代は、競技と勉学を両立した。今後は秋の三重国体に向け、さらなる記録更新に挑む。「予選の感覚から、走ってみて自分にはまるペースなら、もっとタイムが出ると思う。(周囲に)喜んでもらえる結果を今シーズンいっぱい出していきたい」と前を向いていた。



<中間点力走; 左手前・ト部 / 右・広田>

日本陸上選手権 女子800m 自己新で準優勝 広田有紀選手 (新潟アルビレックスRC)

2021/6/2 TeNYテレビ新潟

日本陸上選手権 女子800メートル 自己新で準優勝 広田有紀選手(新潟アルビレックスRC)新潟アルビレックスランニングクラブの広田有紀選手が27日、日本陸上選手権・女子800メートルに出場し、見事、自己ベストを更新、準優勝に輝きました。

東京オリンピック代表選考会を兼ねた日本陸上選手権。27日行われた女子800メートル決勝に新潟アルビレックスランニングクラブの広田有紀選手が出場しました。

新潟市出身で医師免許を持つ広田選手。スタートから先頭にたち後続に大きくリードをつけます。先頭でレースを引っ張る広田選手ですがラスト100メートル、最後の直線で抜かれ、2位でフィニッシュ。2分4秒18と自己ベストを更新しますが、参加標準記録は突破できず、東京オリンピック内定とはなりませんでした。

試合後、広田選手は、自身のツイッターで次のようにコメントしました。「初めての日本選手権での表彰台でしたが、ただただ悔しい思いでいっぱいです」去年6月には右足のアキレス腱を痛めながらも日本一を目指して練習に励んできた広田選手。準優勝という結果に悔しさをにじませましたが、多くの人の支えに 感謝の気持ちを綴りました。

「日本選手権で自信を持ってスタートラインに立つことができたのは、多くの方々に支えていただいたお陰です。本当にありがとうございました」広田選手、今シーズンは競技を続け秋の大会に向けてトレーニングをしていくということです。



次のパリは?



“医師ランナー広田有紀” 葛藤を乗り越え 2020 陸上日本選手権

◆ 800メートル ◆
2020 / 10 / 8 NHK新潟局

医師免許を持つ異色のランナー広田有紀選手。医療従事者がコロナウイルスと日々戦う中で葛藤を抱きながらも、自らの走りで勇気を与えたいとレースに臨みました。女子800メートルの広田有紀選手、25歳。新潟市出身で県内屈指の進学校・新潟高校から秋田大学医学部に現役合格し、この春、医師免許を取得した女性ランナーです。

陸上の実力もトップクラスで、高校2年生の時に国体で優勝、3年生で全国高校総体を制して高校日本一になり、大学3年生のときに初めて出場した日本選手権では4位入賞、今回の日本選手権でも上位を狙っていました。

小さい頃の夢は眼科医 両親が医師で、母親と同じ眼科医になることが小さい頃からの夢だった広田選手。高校までは学業と部活動を両立させていましたが、トプアスリートとしての自分の姿は想像できず、大学では医師になるという目標に集中しようと考えていました。

日本選手権の結果は迎えたレース当日。広田選手の名前がアナウンスされると、会場の観客からはいつか大きな拍手。スタンドには仕事の合間を縫って応援に来てくれた母親の姿もありました。久しぶりに母の目の前で、成長した姿を見せたいとレースに集中しました。



上位2人が自動的に決勝に進む予選。後半の粘りが持ち味の広田選手ですが地元へのレースへの意気込みを示すように序盤から、先頭集団で引っ張ります。最初の400メートルをトップで通過。しかし、終盤になると混戦に。残り200メートル付近で他の選手が前に出て、勝負は最後の直線での争いになりました。大歓声の中、ラストパートをかけた広田選手。力を振り絞りましたが、わずかに届かず4着でフィニッシュ。決勝進出はなりませんでしたが、実は広田選手、日本選手権に向けた走り込みの中で右のアキレス腱を痛め、本調子からはほど遠い状態。9月の大会を欠場、この大会にかけましたが、予選を突破できませんでした。

◆広田有紀「久々にスタート前にたくさんの人の姿があり、あいさつしたときにたくさんの拍手をいただけたのがとても励みになりました。頑張る姿で医療従事者などみなさんの励みにもなればいいなと思って走りきりました。一方、翌日の土曜日の決勝に進めなかったことについて「休日だからこそ来られる医療従事者の方の前でも走れたらよかった」と悔しさをのぞかせました。それでもケガをおして最後まで走り抜いた広田選手の姿は、医療従事者はじめ、多くの人を勇気づけたように感じました。

◆葛藤を抱えながら走り続けた2020年 来年までは陸上に専念し、東京五輪出場も目標に掲げています。陸上に一区切りを着けた後、幼い頃からの夢の医師の道に進むつもり。描く姿は産婦人科医か、ランナーとしての経験を生かして女性アスリートに寄り添えるような存在。今でも医学の知識を忘れないよう練習以外の時間で国家試験前にやった勉強をしている。陸上を極め、納得の走りを目指すと同時に、全力を尽くす姿で多くの人を勇気づけたいとこれからも走り続ける広田選手。異色の“医師ランナー”の挑戦は続きます。

◆ 人見絹枝; 1928 AMS五輪で銀 ◆



人見絹枝(1907-1931) 170cmH
日本人女性初オリンピックメダリスト
1928年アムステルダム五輪で
800m決勝は 2分17秒6
◆当時の非公認世界記録◆
100m12.2 /200m 24.7/
400m59.0 /三段跳 11.62
◆公認世界記録; 走幅跳5.98m◆
～スポーツ万能、文学養育も～

◆ 決勝記録 と 日本&世界記録 ◆

順位	競技者名	所属 所属地	記録	年齢
1	ト部 蘭 ウベラシ	積水化学 東京	2.03.71	26
2	広田有紀 ヒロタユキ	新潟アルビレックスRC 新潟	2.04.18 自己新	26
3	田中 希実 タナカノミ	豊田織機TC 兵庫	2.04.44	21
◆東京五輪・参加標準記録 1.59.50				
◆日本記録; 2分00秒45 杉森美保 2005年				
◆世界記録; 1分53秒28 クラトフビロバ(チェコ) 1983年				

“2021年・報道から【五輪めざすイダテンの医師 1/2】”

編集:工藤義夫(事務局)

医者か陸上か苦悩…それでも夢へと走る「焦るな」同級生の言葉に感謝

< 広田有紀 ; 青山122期 >
2021/5/13 日刊スポーツ

【左】笑顔でインタビューを受ける広田



【右】白衣をまとい笑顔の広田

特別な感情を胸に秘め、取り組むアスリートがいる。陸上女子800メートルで18年日本選手権4位の広田有紀(25=新潟アルビレックスRC)は、昨春に医師免許を取得した。

秋田大医学部を卒業した後は研修医になることを先送りし、競技に専念する道を選択した。その後、世の中は新型コロナウイルスの猛威に見舞われた。今も終息の見通しは立たない中、医師免許を持つ者としてアスリートとしてその思いを語った。陸上女子800メートル 広田有紀(25=新潟アルビレックスRC)

■『よしやるぞ』矢先

今も葛藤がある。「完全にゼロにはなっていない」のが本音だ。とはいえコロナが始まった昨春は、もっとも心が揺らいでいた。広田は当時を振り返る。

「陸上一本に絞って『よしやるぞ』と思った矢先に、医療従事者の苦悩などのニュースが毎日、流れていた。自分のやりたいことと、世間で求められる人材の必要性を考えた時、自分はこんなことをしていいのかわからない。そんな葛藤がありましたね。『好きなことをやりたい』なんて、言っていられないんじゃないかなと、毎日、思っていました」

■社会的意義を考え

医師というのは、資格を持つ限られた人しかいない。誰もなれる存在ではなく、その資格を自分は持つ。だからこそ、社会的意義を考えると、心は複雑になった。「この葛藤の中で、陸上をするのが両立するよりも一番しんどくて…。毎日書いている日記で、感情の整理もしていた。

励みになったのは、研修医となり、医療現場の最前線にいる大学の同級生との電話だった。「医療が大変な時に、私は走っていいのかわからないのか」「医師の世界に戻ったら、ちゃんとできるのかな」。葛藤や不安を打ち明けていた。そして、いつも「応援してるよ」と励まされた。心に残っているのは、「焦るな」と言われたこと。「焦るなどの言葉は陸上一本にのめり込む上で、貴重でした」と感謝する。



■「忘れていないよ」

もちろん苦悩を聞く側にもなる。医療従事者は外出や休日の過ごし方など生活も制限され、今なお仕事も多忙な日々を過ごす。だからこそ、「みんなのことは忘れていないよ」と伝えるようにしている。「それが私にかけられる言葉」であり、心から思っていることだ。

苦しい中でも友人たちが「まあ頑張っているけどね」と前向きに話しているのを聞くと、「自分よりも過酷な状況で頑張っている存在が身近にいる。勝手に励みになっているんです」。



■電話「延期したい」

もともと秋田大卒業後、すぐに研修医となるか、競技を続けるか、悩んでいた。思いが固まったのは5年生だった18年日本選手権。自己ベストとなる2分4秒33を出し、4位に入った。実習などの医学部のカリキュラムをこなすには、練習は夕方5時半から限られた時間でしかできなかった。大変な勉強と競技の両立は「誇り」でもあったが、もっと走りたいとの欲が出ている中では「中途半端」にも感じた。「もっと時間をかけたら、もっと可能性が広がります」と思うようになった。レース直後、眼科の開業医である母美恵さん(59)に電話をかけ、意思を伝えた。「研修医になるのは延期したい」。最初は驚いていた母も「好きにしろ」と背中を押してくれた。覚悟が決まった。

20年2月に医師国家試験に無事合格。「合格率も高く、何も特別なことはしていない」とさりげなく、試験の直前期は「1日10時間ぐらい」の勉強をしたという。同年4月から出身地である新潟アルビレックスRCに入団、念願だった競技に専念する道を歩み出した。しかし結果を求めるあまりオーバーワークで、同6月に右アキレス腱(けい)を痛めた。3月に右ふくらはぎを肉離れしており、負の連鎖に。新潟開催だった日本選手権も「痛くて走るのがしんどかった」と予選落ちで、不本意な2020年だった。今季は痛みも消え、練習を順調に積んでいる。復活の手応えをつかむ。

ただ女子800メートルで東京オリンピック(五輪)に出るのは容易でない。参加標準記録は自己記録とは5秒、日本記録とは1秒近くも速い1分59秒50だ。「強気で臨みたい。頑張るだけ。コロナ、けがで不安になることもあったけど、目標はぶれずに練習を遂行。最大限を日々つなげていけば、もし目標を達成できてなくても、それは自信、今後の糧になるのではないかと話す。決勝は6月27日だ。

■志望は産婦人科

いつまで競技を続けたいか。そんな問いには、このように言葉をつむぐ。「そんなに先までは全然考えてなくて…。女性としての生活、医者としての生活のプランもいろいろ考えているんです。陸上のゴールをいつにするかは、今年の日本選手権の後に、すべて決めようと思っています。五輪を目指して、全力で頑張るって、自分に可能性があると思ったら、もう1年、可能性がないと思ったら、夏には研修医病院に就活へ行く予定です」。

医師としての志望は、産婦人科だ。生理の問題など女性アスリートの悩みはよく分かる。自分がアスリートだったからこそできる特別なことがあると感じている。「アスリートと医療従事者をつなぐパイプ役ができれば」とも話す。また研修で、お産を生で見た時に「最後に『おめでとうございます』と言

る素晴らしさ」にもひかれた。将来はどんな医者になりたいのか? そう問うと「難しいのですが、それ考えるんです」と笑い、こう言った。

「お医者さんは忙しくて、患者さんに近いようで、遠い存在になりがちと聞く。だからこそ、患者さんの側にいられるお医者さんになりたい。こうやって陸上関係者とも医療関係者とも関わったことで、コミュニケーション、人との関わり方も勉強させてもらった。せっかくつけた力を生かして、患者さんから話を聞き出し、寄り添えるお医者さんにはなりたいですね」

アスリートとして、ドクターとして。その2つの道を究められるのは、希少な存在だ。だからこそ、目指す姿がある。【上田悠太】

2013.8全国高校総体
広田有紀が独走V
◇女子800メートル◇

広田(新潟3年)の独り舞台。400メートル付近でトップに後続を引き離しゴール。2位に1秒46の差。「自己ベストを2回更新できたし、いい大会だった。喜びはこれからジワジワくると思う」。

◆広田有紀(ひろたゆうき)プロフィール

1995年(H7)5月20日、新潟市生まれ。新潟高から秋田大医学部に現役合格。陸上は同市の白山小5年時に吹奏楽と両立する形で始め、ずっと800メートルを中心に戦う。新潟高では2年で国体、3年で全国高校総体を制する。秋田大6年時の日本学生対校選手権は2位。好きな食べ物は「1位が真鯛。2位が中華くらげ」。趣味はユーチューブを見ることと猫カフェ巡り。165センチ。



◆後記◆広田の他にも医師を志すトップアスリートはいる。ラグビー・ワールドカップ2大会連続日本代表で今季で引退する福岡堅樹は今春から順大医学部に、柔道女子18年世界選手権金メダルの朝比奈沙羅は昨春から独協医大に入学。陸上男子110メートル障害で日本新を樹立した金井大旺は東京五輪で競技を引退し、歯科医を目指す。陸上男子400メートル障害で49秒50の真野悠太郎も医師国家試験に合格、3月に名大医学部を卒業。

“2021年・春 ～ それぞれ、就職しました”

編集:工藤義夫(事務局)

『就職・2021 春』 ＜霞が関で働き始めました＞

2021.5 <青山125期> 坂上真樹

皆様こんにちは。125期生の坂上真樹と申します。新潟市出身で、新潟高校では世界史と日本史の授業が好きでした。ソフトテニス部に所属し、素敵な仲間にも恵まれました。1年生の夏休みに、部活後皆で海に行った思い出は一生ものです。

法律学科に進学し、特に民法を学びました。ゼミでは認知能力が低下した際にどのように財産を守るかという観点から、成年後見制度や信託法を学びました。3年生の夏に



は台湾研修があり、台北大学の学生と交流して日本と台湾の制度の違いを学ぶほか、千と千尋の神隠しのモチーフとして有名な九份にも連れて行ってもらうなど、充実した活動を行いました。

就職にあたり、日本や世界のスケールで人の役に立つ仕事、そして自分の興味がある法律や金融に関係する仕事という点を踏まえて本年度金融庁に総合職採用で入庁いたしました。入庁してからの初仕事は麻生大臣のコップを大臣室に返却する仕事でした！現在は総合政策局秘書課で採用・留学関係の仕事をしています。(実は金融庁採用・セミナー担当TwitterとFacebookのアカウントを動かしています！皆さん興味がございましたら是非ご覧ください!!) 未来の後輩となりうる学生らと説明会等で交流できることは大変良い刺激です。自分が学生であったときにどのような企画があったら面白いと感じたかを常に考え面白い企画を提案していきたいです。

当方が半沢直樹のドラマが好きなのもあり、次の異動では証券取引等監視委員会事務局証券検査課を狙っています。もともとガサ入れの仕事を警察の捜査のようにかっこいいと思っていたこともあり、銀行1課(大手銀行の監督部署)にもいつか異動したいです。早く「The金融庁」と感じるような仕事に携わりたくてうずうずしています。

コロナウイルスの状況が落ち着いたら東京青山同窓会の会合にも参加させていただきたいです。とっても楽しみにしております。

『就職・2021 春』 ＜京都から首都圏で就職＞

2021.7 <青山122期> 押木 淳

122期卒業の押木 淳です。

京都大学大学院卒業後、住友化学に就職して首都圏にきましたので、東京青山会に加入させていただきます。よろしくお祈りします。初めまして、122期卒業生の押木淳と申します。この度、関東圏に転入してきました東京青山同窓会のお仲間に入れていただくことになりましたので、簡単に自己紹介をさせていただきますかと思っております。

高校時代はフェンシング部に所属していました。同期には本間組で活躍されている女子エベの古俣(潮里)選手がいました。身近に世界レベルの選手がいたのはとても貴重な経験だったと思います。

私はと申しますと、大して上手くも強くもありませんでしたが、大学でもフェンシング部に入りました。高校時代はフェンシング部がある学校は新潟県で二校しかなく、狭くて閉じた世界でしたが、大学では津々浦々の大学と試合する機会が毎年あったり、規模の大きな試合に挑戦する機会があったりとオープンな環境で結構楽しくフェンシングをしていました。結局大して強くはなれませんが…(笑)

大学卒業後は、大学院に進学して理論化学やシミュレーションの研究をしていました。そして今年から化学メーカーに入社し、機械学習やシミュレーションを活用した材料開発、マテリアルズ・インフォマティクスの仕事をしております。今は皆様と直接お会いしてお酒を飲むということがなかなか難しい状況ではありますが、何卒よろしくお祈りいたします。



“2021年・報道から【野球 レギュラーを目指して】”

編集:工藤義夫(事務局)

◆野球と学業への傾倒◆ 叔父に刺激受け 社会へ貢献したい!

大越 遥平 <青山127期>
2020.4.19 新潟野球dot.com

【2020年春... 新たなスタート】 東大入学の大越遥平さん

叔父(大越健介)に刺激受け
「社会に貢献できる人に」

◆ ◆ ◆
野球を通して学んだことがある。その思いを胸に、今春新たなスタートを切る<野球人>を紹介する。



左が新潟高校野球部の大越遥平さん(19)、
恩師の後藤桂太監督も合格を喜んだ(3月中旬)

2020年3月中旬、母校の新潟高校に合格報告に訪れた大越さんを、後藤監督が笑顔で出迎えた。

1年浪人の末に文系の最高峰である東大文科一類に合格。高校で3年間野球を続け、3年夏には背番号13を付けベンチ入り。4回戦で優勝候補の日本文理高校を破り、ベスト8入りしたチームを陰で支えた。「仲間と一緒に試行錯誤しながら前に進むことができた」と野球部時代を振り返る。叔父はNHKキャスターで、新潟高校と東大でエースとして活躍した大越健介さん。叔父に刺激を受け、同じ東大に入学した大越さんは「社会に貢献できる人になりたい」と誓っている。

「とにかく努力の人。運動能力では他部員よりも劣るが、それでも諦めない。一度たりとも手を抜かず、コツコツ自分を高める努力をしていた」...後藤監督が教えた子をこう評した。大越さんは野球部時代の3年間で笑顔で振り返った。「仲間に恵まれました。「前向きな」仲間たちと一緒に野球をできたのが楽しかった」大越さんが野球を始めたのは小学2年生の時、2歳上の兄で2016年に新潟高校の主将を務めた大越篤甫さん(現・慶応大)の影響だった。入学した新潟高校では、なかなかレギュラーの座を勝ち取れなかった。しかし「冬場には誰よりもバットを振り込んでいた。気持ちの強さは他の選手にはないくらい。とにかく頑張る選手だった」という努力で、最後の夏は背番号「13」を勝ち取ってベンチ入りした。試合では一塁コーチとして打

席の間にアドバイスを送った。夏の新潟大会4回戦では、優勝候補だった日本文理高校と対戦。鈴木裕太投手(ヤクルト)、新谷晴投手(上武大)といった好投手や相手の強力打線「試合前に徹底的に研究した」という大越さんたちは、5対3で勝利。「あの試合で“準備の大切さ”を学びました。仲間みんなが前向きで『上を目指そう』という妥協のないチーム。それが日本文理を破ってベスト8に行った結果につながったと思います」「最後となった新発田戦では、エコスタ(ハードオフ・エコスタジアム)で7回の攻撃時の応援歌『丈夫(ますらお)』を聞き、一塁コーチでいた時、自分の背中から物凄い声が響いてきて、震えました」

目指してきた甲子園出場は叶わなかったものの、大越さんは「多くのことを学ぶことができた高校野球生活でした」と振り返る。高校3年夏の大越さん一塁コーチとしてチームの快進撃を支えた。

大越さんが東京大学に進学したいと考えるようになったのは、高校2年の頃だった。「東大では2年間の教養課程を経て、自分の進路を選ぶことができます。ある程度学んでから、進路を選択できるところに魅力を感じました」そしてもうひとつ、大越さんが東大を志望した理由がある。「高校時代に野球であまり活躍できなかったことです。東大に入ったら野球部に入って、もう一度挑戦したい、という気持ちが浪人生活の心の支えでした」

大越さんの叔父はNHKキャスターの大越健介さん。新潟高校から東大野球部に入り、エースとして神宮で8勝を挙げた名投手としても知られる。「叔父から野球に関して何かを言われたことはありませんが、身近な“すごい存在”として、目標というか、常に意識はありました。報道の仕事で社会に貢献している...同じ職業を目指すという訳ではありませんが、自分自身も叔父のように『何らかの形で社会に貢献できる人になりたい』とずっと考えてきました」

叔父でNHKキャスターの大越健介さん(2016年7月)



叔父でNHKキャスターの大越健介さん(2016年7月)

そして今春、大越さんは見事に第一志望だった東大文一に合格した。「叔父からは父親を通して『おめでとう』と祝福されました」と笑顔を見せる。

新潟高校から東京大学野球部に入部することになれば、大越健介さん(1985年・東大卒)以降、成澤良さん(2004年・東大卒)以来のこと。新潟県内の高校出身者では長岡高校出身の木曾耕一さん(2005年・東大卒)以来となる。後藤監督は「もし野球部に入ることになったら、すごいことだとワクワクしています。ただ東大といえども、今年は甲子園に出場した選手が入部するなどレベルは高い。本人次第

ではありますが、もし入部すればいろいろな形でチームに貢献してくれるはずだと思います」と語る。周囲も「神宮で30年ぶりとなる『東大・大越』の復活か」と期待を寄せるが...大越さん本人は慎重に言葉を選ぶ。

「浪人時代は野球部に入ることを心の支えに頑張ってきましたが、大学に入った以上、勉強はしっかりやらなければと考えるようになりました。教授陣や周りの学生のレベルも高く、将来を考えた時に勉強は疎かにできません。野球部に入るかどうかは今も分かりませんが、学業第一でしっかり生活しようと思っています。入学した後、実際に野球部の練習を見に行くつもりです。そこで両立できるかどうかを考えて決めたいと思います」

大越さんと同様に大学合格を決めてチームメイトが後藤監督に報告。左端は信州大学医学部に入学した木村竜晟さん。右から2人目は筑波大に入学した桐本貴太さん(取材は3月中旬)

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、残念ながら入学式はなくなり、東大野球部の新入生練習会は中止となった。大越さんが希望する練習見学はまだ先になるが、授業はオンラインで20日から始まる。待ちに待った大学生活がスタートする。

仲間たちと甲子園を目指し、高校野球に没頭した3年間。大越さんはひたすら努力を続けることで、仲間たちに力を与え続けた。悩みながらも力をつけ、目標のひとつであった大学入学を果たした。「高校野球頑張ってきて、よかった。努力して、うまくいくことも、うまくいかないこともありますが、仲間と一緒に試行錯誤して前に進むことができました。今は将来についてはまだ決まっていませんが、それを決めるためにこれから始まる2年間の教養課程生活を大事にしたいと思っています」



左から、

- ・木村竜晟 / 信州大医
- ・大越遥平
- ・桐本貴太 / 筑波大

後藤監督

◆2021春;新潟県第3位
→北信越大会出場、1回戦敗退
新潟2-16敦賀気比<優勝>

◆2021夏;
~3回戦で惜敗~
新潟3-5 柏崎工



2018年夏の新潟大会でベスト8に進出した新潟高校(前から2列目・右から2人目が大越さん)



2018年夏4回戦で優勝候補の日本文理を破ったものの、準々決勝で新発田高校に敗れベスト8。甲子園に届かず。

“2021年・報道等に見る「青山ゆかりの方の記事」から”

編集:工藤義夫(事務局)

(惜別)寺尾正大さん オウム真理教事件捜査を指揮した元警視庁捜査1課長 <青山68期>

2021年4月24日 朝日新聞

捜査1課長就任が決まり、抱負を語る寺尾正大さん。「被害者の気持ちを忘れずに捜査すれば、難事件も解決できる」を信条とした=1995年2月、東京・警視庁

「サリン防げたはず」、涙の悔い

1月24日死去 78歳

14人が死亡、6千人以上が負傷した地下鉄サリン事件をはじめ、多くの凶悪事件の捜査を指揮した。「ロス疑惑」などの難事件も手がけ、全国の捜査員にその名を知られた。

「ようやく警視庁がオウム真理教の捜査をやれます」。1995年2月28日、夜回り取材で東京都内の官舎を訪ねた私に、力強く、静かに言った。殺人などの凶悪犯捜査を担う捜査1課長に就いた日のことだ。数時間前、信徒の親族を取り戻そうと教団と対立していた公証役場事務長が、都内で拉致された。

94年長野県松本市で猛毒のサリンが噴霧され、8人が死亡した。89年には教団を批判していた横浜市の弁護士一家3人が行方不明に。早くから教団の関与を疑い情報を集めていたが、東京を管轄する警視庁は都外で起きた事件の捜査を当時はできず歯がみしていた。急ピッチで教団への本格捜査を準備していた95年3月20日朝、都内の地下鉄3路線の電車5本にサリンがまかれた。1課長室に駆け込んだ私たち報道陣に叫んだ。「サリンです。詳しくは後、すぐに報じて。被害者の衣服には触れるなども」。事前にサリン研究を指示していた成果だった。

山田正治さん(80)は1課ナンバー2の理事官として、山梨県上九一色村(当時)の教団拠地に詰めた。ここに隠れていた松本智津夫元死刑囚逮捕の前日、寺尾さんに「サリンで攻撃されたら拳銃を使います」と告げた。「はい、でも松本だけは撃たないで。未曾有のテロの首謀者を死なせ、真相解明が危くなるのを避ける冷静な指示だったと振り返る。

テロや外事事件を扱う公安部の宮崎忠さん(81)も独自に教団情報を集めていた。弁護士事件発生後、警察首脳に「寺尾さんと極秘で捜査を」と指示され、毎晩2人で作戦を練った。「迎合しない部下を集めた『軍団』で実績を重ねた。自身は報告書を徹底して読み込む。いまそんな指揮官がいるだろうか」

勇退後、オウム捜査の問題点を確かめるため、私は自宅を訪ねた。「検証は報道の務め。これがあれば大丈夫」。分厚いノートの束を手に、薄れがちな記憶を補いつつ答えてくれた。

遅かった。警視庁がもっと早く捜査に入っていればサリンなど他の事件は防げました。私はオウムをやるために捜査1課長になったのに――。別れ際、涙ぐみながら何度もそう繰り返した。(緒方健二) * てらおまさひろ

惜別 2021



寺尾正大さん 逝去 (青山68期)

2021年1月24日 歿 (78歳)

◆警視庁“ミスター1課長”

…元捜査1課長等…

◆「ロス疑惑」、「地下鉄サリン」等難事件指揮。オウム真理教団の逮捕・起訴にも尽力。

◆講演:「犯罪捜査と我が友」
2002.6 東京青山新人歓迎会。
ロス疑惑捜査の裏話も披露>>



<<アーカイブ>>



第32号 <<東京青山会報>>
発行日:平成14年10月20日

東京青山 講演会 <<犯罪捜査と我が友>>

2002年6月 ~ ロス疑惑裏話も

◆講演 平成14年6月 新人歓迎会◆

68回卒業で、元警視庁捜査一課長の寺尾正大氏が「犯罪捜査、そして我が友」と題して講演を行った。

この中で寺尾氏は、殺人・強盗・放火などの凶悪犯罪を専門に、捜査活動を踏まえ、「現在の犯罪捜査は、多くの捜査員を動員しての組織捜査で、組織を動かす優れた指揮者を必要としている。捜査の積み重ねが必要だが、良い指揮者になるには経験を重なるだけではなく、経験したことを単なる経験に終わらせず、その経験を自分で“質の良い経験”に変えて蓄積してゆくことが大切だ。」と捜査一筋の人生経験を語った。また、自分が担当した犯罪捜査の過程で出会った「友人との触れ合い」をユーモアも交えて。

<<ロス疑惑>>

そのひとつは昭和56年の『ロス疑惑』。この事件では、新潟高校同期生である小日向信光さん(68回)に頼んで、被告の店の経営状態を調べてもらった。小日向さんは徹底的に調べて、店が破産寸前に陥っていること突き止め法廷で証言してくれた。そこまでは良かったが、ふたりが高校の応援団のリーダー仲間だったことを弁護側が知っており、法廷でその点を追及される羽目になり大いに慌てたとのことである。

また、同じロス疑惑の捜査の際に「中学校の同級生(中央高校卒)がロサンゼルスでクラブを経営しており、日本人街の状況にも詳しい。」と、同期の友人が話していたことを思い出し、国際電話で連絡を取り合って、いろいろと協力してもらった。渡米して現地で見学に当たった際には、加熱するマスコミの目を隠すため、彼女の家を捜査員の集合場所や休憩場所として利用させてもらったと、「初めて明かす」取って置きの裏話を披露した。

<<地下鉄サリン事件>>

一方、平成7年3月に起きた、オウム真理教による地下鉄サリン事件では、同期の友人、鈴木裕徳さん(68回)が被害にあったことを紹介した。鈴木さんは、地下鉄の車内で事件に遭遇して意識不明の重体に陥り、一命は取り留めたものの、今なお後遺症に悩まされている。寺尾氏は、捜査一課長として陣頭指揮に当たる中で鈴木さんが被害にあったことを知ったという。寺尾氏は身近にサリンの被害者がいることを同窓の我々に知らせる大量によって、一般人を巻き込んだ無差別大量殺人とも言える、この事件の恐ろしさをあらためて訴えたかったようだ。

記 ~ 重野康人(68回)



“戦後76年;ふたつの祖国～満州から新潟への帰還”

編集;工藤義夫(事務局)

二つの祖国～満州から新潟へ (新潟地震;次回) “上村嶺子”

<青山68期> 2021.5 寄稿

中国の思い出～満州・新京(長春)



《満州国 とハルビン》 解説

「極東のパリ」。中国東北部の街ハルビンは、そう呼ばれていた。日本が謀略で打ち立てた満州国の時代、目抜き通りに洋館が並ぶ街。ハルビンは、もとは革命前の帝政ロシアがいち早く進出し、中東(東清)鉄道の拠点として開発した街だった。

ハルピンからの逃避行 ◆ 敗戦後

私は父(川瀬金次郎)が大陸科学院副研究官の時1941年10月、新京私立病院で生まれました。兄が二人居ります。1944年6月の父の応召、1945年ソ連参戦、終戦などは記憶にありませんが、母に背負われて新京郊外の疎開先から新京に戻った頃から、私の記憶が始まります。ソ連軍が入って来て兵士が時計をいくつも腕にはめていたこと、家の中に入れて来て机の引き出しをあげ、ものを取っていったことを覚えています。南嶺の官舎ういソ連兵に追い出され転々とうつり住みました。

1946年、八路軍と国民党軍との市街戦があり、大陸科学院にも大砲があたり内部が燃えているのが見えました。1947年には八路軍が優勢となり10月には電気、水道、ガスすべて駄目になり、夜はお皿に油を入れ細かく砕いた木綿の布を入れて灯りを点し、家族は頭を寄せ合って本を読んだりしたものです。

1948年4月、私は日本人会の学校に入りましたが、革命戦争はいよいよひどくなり、市内は食糧がなくなり、ニレの葉やこうりゃん酒の粕を食べ、餓死者が多く出始め、かつての動物園も墓場になりました。日本人の残留者は両軍の交戦地帯の間の関所(チャーズ)を抜けて脱出することを考え始めます。まず、50名くらい出ていきましたが様子は不明、不安は残りますが、50名の希望者が父を団長として出るようになりました。リヤカーに荷を積み、(チャーズ)に入った途端、暴民に襲われ、母が身に着けていた食べ物を奪おうとする揉み合いで母の背中がずり落ち当時6歳だった抱き取って逃げました。その時もうこれで親には会えないと茫然としているうち、次第に収まって合うことが出来ましたが、私達も残留孤児になるところだったとぞっとします。回りには死体がいっぱいありました。

3日目に八路軍側へ出て前後を兵士に守られ歩いたり、トラックに乗せられたりして吉林の師範大学の建物に入り、弱っていたものはビタミンの注射をしてもらったりして次第に元気になり私と兄は共

に中国の大学付属校に入れてもらいました。複式学級でいきなり鶏とゆう様なむつかしい字が出る、算数しかわかりませんでした。生徒に大人もいるのでびっくりしました。10月父はハルピン行きを命ぜられ、新しく出来る東北農学院の教授となり、ハルピンには日本人の学校もあるからと母に励まされ、リュックをかついで汽車にのりました。ハルピンでは家ももらい私は日本居留民会の小学校の1年生になりました。先生が私を抱き上げて苦労して逃げてきた子だと紹介して、プリントの教材をくださいました。農学院の官舎におちついてからは百戸以上の中国人家族の中で暮らし、学校で中国語も習い、官舎内の子供達と友達になりました。

1953年、6年生になった5月に日本へ帰ることが決まり、集められて集団生活となり、ハルピンに約一ヶ月、瀋陽に約一ヶ月、汽車に三日間乗り上海から船に乗ることになりました。子供たちは学校もなく遊び暮らしていましたが気楽なものでしたが、親たちは予定以上の長逗留にお金のなくなる人もあり大変だったようです。上海では中国の子供達が少年宮で送別会をしてくれて歌や踊りを見せてくれました。

帰還船“高砂丸”で舞鶴に上陸、帰国といっても私には生まれて初めて見る日本の山々を不思議な思いで眺めたものです。両親、兄弟揃って帰れた私は本当に幸せで、たった一人で帰ってきた子供達も幾人かいたのです。舞鶴で誰も身寄りがないまま帰って来ようと言っていた級友が叔父さんが来ていたと喜んでいた顔を思い出します。何時か又生まれた土地へ行ってみたくと思っています。(1992. 9. 20)

40年振り◆ポプラ並木のハルピン

私は昭和28年8月迄、小学1年生後半から6年生の半ばまでの約6年間をハルピンで過ごしたので、ハルピンは私にとって思い出の多い故郷です。そのハルピンに今年9月、約40年ぶりに両親と主人の4人で久方ぶりに訪れる機会に恵まれました。

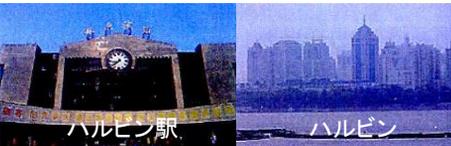
40年前は3ヶ月もかかって瀋陽を経由して上海から帰国したのに比べ、今回は成田から北京迄4時間、北京からハルピン迄2時間の計6時間で目的地に着くことが出来ました。ハルピン空港から市内に至るポプラ並木の景色が既に懐かしく、ロバの引く馬車、高粱畑、赤レンガの街並など子供の頃の記憶と同じ風景に感動しました。宿舎となったハルピン国際飯店(旧ホテルニューハルピン)のまわりの景色、近くの博物館など昔のたたずまいそのものでした。幼い頃の記憶を頼りに博物館近くの目印から、普通っていた小学校を見つけ出すことが出来、本当に感無量の一時でした。現在はテレビ局の広告部になってはいたものの、玄関のベチカ、廊下沿いの壁、校庭の樹木、校舎裏の石炭置き場など以前の状況そのままが残されており、同級生達と遊び回った頃の様子が目に浮かび消えて行く感動にひたっていました。

一方、宿舎近くにあった中央病院は既になくなりましたが、近くの路上では果物、野菜、魚、本、衣類などをはじめ自転車の

修理屋さん迄生活必需品につながる種々の露店が林立していました。すっかり忘れかけていた黒い松の実のような食物、トウモロコシの粉で出来たクレープ風のチェンビンなど当時と同じものもありました。街中はトロリーバスをはじめ小型バス、タクシー、リヤカー、自転車などあらゆる交通手段の往来が激しく、活気あふれる生活状況に感銘致しました。翌日、松花江と太陽島を訪れました。子供の頃家族で泳いだり、遠足や釣りを楽しんだ場所がなつかしく、また太陽島には日本庭園が出来ていて、日中の交流が一段と進んでいる事を知りました。

最終日には父の以前の勤め先の東北農学院に向かいました。途中にあった忠霊塔は今春、既に壊されていて影も形もありませんでしたが、勤め先は現在、ハルピン医科大学として無事にあり、40年前帰国の送別会を開いて頂いた事を思い出しました。現在、日本は治安の良さをはじめ、気候、道路、政治、経済、通信や教育などあらゆる面で本当に恵まれていることが外国との比較でよく解りました。戦後の一時期には私も一命を落としかねない時に無事帰国出来、また学校教育も受ける事が出来た事を大変感謝しています。

中国は現在大変な建築ラッシュです。あの小学校校舎もやがては取り壊される運命にあるのでしょうが、その前に今回訪問できた事は本当に良かったと思います。中国人の活気あふれる生活状況は日本の戦後にも似ているかと思いますが、今から何年後にはハルピンもすばらしい近代都市に生まれ変わるでしょう。(1994. 10. 19)



年会費納入者一覧 ; R3.4.1~R3.9.14 現在

- 51回(1名) 北村 茂
- 52回(1名) 廣川 勲
- 53回(1名) 堀 時雄
- 第56回(4名) 赤坂長弥 網干道雄 加藤勝則 皆川正男
- 第59回(6名) 梅沢貞雄 岡田 久 小村幸久 茂泉喜彦 長橋敏雄 納谷喜郎
- 第60回(6名) 金山常吉 杉野剛博 高城英雄 長谷川秀三 早川貞夫 丸山敏視
- 第61回(12名) 安藤友憲 草間光俊 熊谷隆幸 佐藤敏夫 小林孝司 小林元雄 杉山由人 田中 宣 徳田晋也 長沼雄峰 村岡公夫 村山 健
- 第62回(8名) 石黒 恒 内山隆之 小池健治 近藤哲朗 鈴木 勉 曾我 健 帆苅宏典 渡辺千里
- 第63回(3名) 浅野康一 市川瑞夫 馬場政説
- 第64回(10名) 遠藤治一 佐藤 章 佐藤茂司 清水良男 須田頼治 高橋正幸 藤澤靖郎 星 満 榎湯晴夫 松田 勲
- 第65回(7名) 安藤宜清 五十嵐徹 佐藤武行 鈴木衛士 濱田庄市 山本和親 横山修二
- 第66回(4名) 石山芳春 稲月喜一 高橋 守 吉田六左工門
- 第67回(9名) 石井幹男 岡崎 功 小野勝義 北村紘一 清水雄伍 高野宏一 寺井 宏 前田康久 三堀 浩
- 第68回(7名) 上村嶺子 草野 佐 小日向信光 重野康人 竹石 肇 長沼誠二 渡邊千艦
- 第69回(6名) 青木利祐 小黒朋弘 佐藤孝靖 高木敏之 永井晴美 矢川一義
- 第70回(3名) 池田好正 猪口 孝 渡部美那実
- 第71回(6名) 内山博勝 柄沢 卓 齋藤 誠 高橋 稔 堀 清忠 宮村達男
- 第72回(14名) 金巻裕史 黒木トシ子 小嶋修一 小林正昭 近藤 正 齊藤俊正 菅又 滋 篠原一博 富田由李 中地光子 野村耕治郎 古山恒夫 宮村 晋 横堀 弘
- 第73回(3名) 飯村 修 山田美成 両川弘道
- 第74回(35名) 藍沢幹人 味方 冽 池 一 池田正行 池田 裕 和泉 潤 岩城修平 大石憲一 大滝 均 片野忠一 加藤 博 工藤義夫 解良和郎
- 第75回(13名) 有菌順子 五十嵐 正 大塚恵子 笠井 忠 木戸 守 白鳥十三 高木久夫 橋爪博美 服部 昭 馬場俊博 葦蔵信行 藤井建一 藤縄利勝
- 第76回(36名) 青山耕一 浅妻厚 明村澄雄 阿部令一 阿部緑生 天野直二 坂羽 健 岩橋俊朗 大竹力三 尾張明美 加澤正樹 加野裕資 賀谷彰夫 木下正仁 久住 治 後藤徳広 小松澄子 小宮山信男 近藤壽邦 指田久美子 鈴木隆雄 鈴木茂夫 太原まゆみ 田中邦直 田村俊作 中川英二 長北 学 西沢芳樹 長谷川邦良 八田進二 浜田正継 林 誠 湊 勝 渡辺 拓 渡辺雅夫 湯本雅恵
- 第77回(5名) 片山 等 北村一雄 佐藤 茂 仙 豊茂 長谷川実
- 第78回(10名) 石丸隆夫 太田秀樹 斎藤庫之丞 志藤洋子 篠田敏朗 須田幸子 滝沢道夫 肥田博子 村田光男 吉澤哲彦
- 第79回(6名) 内山 修 小田章治 川上康夫 鳥羽正尚 富山浩司 林 綾子
- 第80回(7名) 青木隆次 大霜博之 長 正子 川名正敏 小林亮介 清水洋一 竹本泰子
- 第81回(6名) 荒川 洋 越野昌芳 玉木勝一 成海孝二 山田 徹 鰐淵 博
- 第82回(6名) 小亦 斉 日下部朋子 内藤 理 西山活子 福嶋元 宮村伸一
- 第83回(8名) 浅間芳朗 遠藤光郎 木下康司 佐藤 扶 佐野栄二 高山佳郎 野呂咲人 山口虎彦
- 第84回(4名) 朝倉仁樹 唐澤亜弥子 野口俊介 塙 昌樹
- 第85回(7名) 浅田浩義 荒井裕子 今井豊重 奥村 基 田中 清 森 大輔 渡辺友紀子
- 第86回(3名) 斎藤 健 宮腰重三郎 吉井正行
- 第87回(2名) 清水忠明 渡辺政城
- 第88回(2名) 大越健介 小竹 聡
- 第89回(3名) 小山信也 山田敏昭 渡邊克彦
- 第90回(11名) 歌代幸子 勝山達志 木村和人 小林 到 小林美奈子 斎藤 彰 斎藤結花 中村泰 樋口正史 森 豊 渡辺正明
- 第92回(2名) 白坂和久 前田光俊
- 第94回(2名) 小松朋子 藤沢健司
- 第99回(2名) 君和田俊裕 町田清彰
- 第100回(1名) 吉原貴之
- 第101回(6名) 浅香美貴 小田和哉 折笠智則 片桐朋美 後藤卓 鈴木由貴子
- 第102回(1名) 尾口優子
- 第109回(1名) 駒形 悠
- 第110回(2名) 石崎 徹 酒井優理子
- 第118回(1名) 会田俊貴
- 第119回(1名) 塙 孝哉
- 第121回(1名) 柄澤秀親
- 第122回(1名) 押木淳
- 第123回(1名) 五十嵐将
- 第124回(1名) 寺井 悠
- 第125回(1名) 坂上真樹
- 第126回(1名) 長浜朱音

◆その他
複数年前納者
(合計除外)

- ・第72回 西村正徳 (5年分~2021)
- ・第74回 青海 潔 (5年分~2024)
- ・第74回 岡村康生 (5年分~2022)
- ・第74回 川田澄子 (5年分~2022)
- ・第84回 星野紹英 (25年分~2045)

◆ご寄付
・第80回 長 正子 (3千円)

本会は、皆様の年会費で運営しております。ぜひ、納付のご支援ご協力をお願いします。

目標
450名

申し上げます。

以上
計301名
(~2021.9.14)

納付額計
669千円

当同窓会は皆様の「年会費」によって運営されています。年会費納付のご協力をどうぞよろしくお願いします。

2021年度予算 および 同<上半期>決算 (令和3年4月1日~令和3年9月30日)			
◆令和3年9月14日 現在 (金額:円)			
摘要	令和3年度予算 (R3.4.1 ~R4.3.31)	令和3年度決算 (R3.4.1 ~R3.9.10)	備考 (令和3年度分)
期首現預金残高	1,620,648	1,620,648	
収入			
年会費	800,000	669,000	301名 総会兼新人歓迎会 6月予定~中止 (コロナ下)
總會会費	0	0	長 正子氏
寄付	0	3,000	
雑収入計	0	0	
受取利息	20	9	
合計	800,020	672,009	
支出			
總會費用	0	0	総会兼新人中止 6月予定~中止 (コロナ下)
ますらお会補助	0	0	第5回; 中止
会報通信費計	900,000	609,193	◆第68号発行済 ◇第69号発行前 人件費、出張費等
事務局費	740	740	ホームページ刷新 サーバーレンタル料等
ホームページ改修費	7,086	0	
会議費	1,600	0	会議1回; 下期予定
手数料	62,790	51,578	
雑費	0	0	
合計	972,216	661,511	
期末現預金残高	1,448,452	1,631,146	

注1) 会計年度期間: 2021年度 (R3.4.1~ R4.3.31)の1年間

■ 会員ご訃報 ■

(敬称略)

R3.4~R3.9月までに事務局に
お知らせいただいた方々です。
心よりご冥福をお祈り申し上げます。

卒回	御氏名	逝去日
53	堀 時雄	2020(R2).10.25
60	小林 吾郎	2021(R3).3.10

“2019年・報道等に見る「青山ゆかりの方の記事」から”

編集:工藤義夫(事務局)

竹本 恵 (たけもと めぐみ)

◆MBA留学記「スペインで起業」今夢を叶えている最中◆

元・日経新聞記者が退職し子連れ留学。必修期間終わり起業フェーズへ

2019.07.09 日経DOORS

新潟高校には3年から編入。青山107回卒、東大野球部。東京六大学野球に投手で出場。教育学部を卒業後、3年間、二輪で世界旅。東大公共政策大学院。日経記者。結婚、出産(2子)、離婚後、子連れでスペインバルセロナにてMBA留学中。



2018年7月末にスペインのバルセロナに渡り、ESADEビジネススクールのMBAコースで学ぶ竹本恵さん。授業で学ぶ期間も終盤に差し掛かり、「起業」の実現に向けて始動しています。今、学んでいることや感じていることを教えてください。

<必修期間は早くも終盤に>

バルセロナでの生活も早くも、あっという間に1年がたとうとしています。毎日同じ教室で同じ席に座るとい生活は高校生以来。これもなかなか居心地がよいものです。授業やグループワークなど実際の日々の活動の以前に、そこに自分の居場所が確保されているというのは大きな安心感があったように思います。この毎日決まった席で授業を受けるという期間がこの5月で終了してしまっしたので、その後は何とも寂しい気持ちに襲われています。



3学期のチームメートです。1~2学期に比べて期間が短かったので、あまりみんなが集まって議論する機会は多くなかったのが残念です。若干、平均年齢が高めなためか、落ち着いた雰囲気ของทีมでした。とはいえ寂しさには浸っている余裕もなく、「ビジネス・シミュレーション」という科目を2週間にわたってこなしました。A、B、Cの各クラスの生徒がごちゃ混ぜになった8人チームに分けられ、それぞれが同じ条件で1つの(架空の)会社を運営し、業績を競うというものです。

どの製品をどこでどれだけ生産するか、広告、研究開発はどうするかなどを毎日、前日の夜に配られる情報を分析して議論して決めていきます。私は生産管理の担当になったので、製造費や在庫管理の分析などを踏まえ、最適な生産量を提案する役割です。各自が担当範囲で分析、計算しても結局、最後の擦り合わせのさじ加減は感覚的になるのが面白いところです。

その次に「マスタープロジェクト」という最後の科目を受け、いよいよ必修期間は終わりです。私の履修期間は18カ月で2020年3月までは授業を受けるので、実際の期間でいえば後半に入ったところですが、単位や気持ちの上ではもう8割方のところまで来たような感じがします。

<連載>
第5回
全6回

元記者 竹本恵の



MBA in

バルセロナ

学校の廊下から見たミーティングルーム。椅子が8脚と机、ホワイトボード、ディスプレイがあり、基本的には予約して使います。特に朝、授業前に自習する時間に大変お世話になっています。↓



前述した起業支援プログラムは2019年6月から10月までで、優秀なチームは最後に投資家向けに発表する機会をもらえます。当はその場で資金調達に結び付けることを目指すのが目標になります。一人目のお客さんを獲得して実際に売り上げが上がったときはきっと感動するのだろうと思うと、ワクワクします。

<イベントに顔を出し、ネットワークを広げるぞ!>

卒業までにやりたいことの2つ目は、ネットワークを広げることです。これまではどうしても、授業が忙しいことや子どもの世話、そもそも生活に慣れることなどで精いっぱい、なかなか人脈を広げるところまで手が回りませんでした。そもそも社交的な性格ではないので、放っておくと交友範囲がほとんど広がりにません。今後は少し授業に余裕が出てくることもあり、ベビーシッターを頼む時間を増やすなどして人脈づくりの時間を確保したいと考えています。

具体的にはできるだけ、いろいろなイベントに顔を出すようにしたいと思っています。できるだけ多く、これまであまり話したことがない人や知らない人と会って話したいです。これは今後の起業にもかなりプラスに働くと考えています。自分の頭で考えているよりは人と話すことで、新しいアイデアが生まれたり、全く違う角度から助言をもらえたりするでしょう。繰り返しになりますが、社交的な性格ではないので、知らない人としかも英語で話すのはかなり億劫なのですが、いろいろな意味で自分を成長させられるいい機会になると信じています。

<私の課題は「コミュニケーション・スキル」>

さて、3つ目は人脈づくりとも関係することで、コミュニケーション・スキルを上げたいと思っています。これは「スキル」であり、持って生まれた性格にかかわらず、ある程度は学んで身に付けられるものだと、自分に言い聞かせています。

先日、クラス全体の夕食会に参加する機会がありました。6~7割くらいの人に来ていたように思います。その中で、とあるブラジル人のクラスメートが「両親がちょうどバルセロナに来ていて夕食会に参加したいと言っている」ということで両親を連れてやってきました。日本人の感覚からすると少し驚きですが、家族ととてもいい関係を築けているのだろうと思います。

その時、隣のテーブルに座っていたイタリア人のフェデリカというクラスメートが「ちょっとご両親と話して〜」と言って席を立て、かれこれ1時間近くずっと話し込んでいました。彼女はいつも明るくみんなに好かれるキャラクターで、クラスでもいつも積極的に発言するタイプだということをもともと分かってはいたのですが、改めてその時、「フェデリカすごい」と思いました。ちなみに彼女に限らずいろいろな人がご両親を取り囲んで和気あいあいと話していました。

<ESADE内の起業支援プログラム、エントリー準備中>

この辺りで、私が卒業までにやりたいことについてお話したいと思います。大きくは3つあります。

第一に、事業の立ち上げです。スペイン行きを決めた時から、現地で起業して卒業後もバルセロナに残って事業の運営にあたりたいと思っていたので、これが何よりもやりたいことであり、やらなければいけないこととなります。ESADEには「EAccelerator」という、起業を支援するプログラムがあり、今まさにそれに応募しようと画策している段階です。

この数カ月間、ビジネスのアイデアを考えたりさまざまな授業を受けたりする中で思うのは、結局、今まで誰も思いつかなかったような斬新で画期的なアイデアなどは出てこない、ということ。そういうアイデアを思いつく人は、世の中広しといえどもそうそういるものではないでしょう。

また、これはアントレプレナーシップを担当した教授が言っていたことですが、今広く流通している画期的なビジネスでも、もともとのアイデア段階では、誰もが「これはすごい!」というS級のアイデアではなかったものも多いそうです。S、A、B、Cとランク付けするならAやBのもの。では何が差をつけるのかというと、そのアイデアを基にビジネスモデルをどう作るかなのだと思います。

顧客のニーズを探り、誰にどうサービスを提供するのか、どこからどうやって売り上げを立てるのかなど、考えなければいけないことは山のようにあります。

もう一つ、差をつけることとしては、実行に移すかどうかです。素晴らしいアイデアを思いついたとしても、それを事業として立ち上げるかという、さまざまな事情から断念する人も多いでしょう。

新規事業にはいつでも、大きなリスクが付きまといま。幸か不幸か私は既に仕事を辞めており、既存の仕事という意味では失うものは何もないので、新しいビジネスに全力を投じられると考えています。と言うか、早く何とかしないと生活が立ちゆかなくなりま。

ESADE



2019年・報道 「青山ゆかりの方の記事」

何がすごいと思ったかという単純に、もし自分だったらそんなに話が長時間持つわけがない、ということです。初対面の相手と話が弾むというのはとてもすごいことです。フェデリカはもともと話し好きな性格ではありませんが、どうして話すネタが尽きないのか、私からすると不思議でなりません。もちろん日本でも同様のタイプの人はいますし、いつもなら「すごいな、羨ましいな(でも自分とは違うから)」で終わるのですが、今回は「彼女から学べる部分、まねできる部分があるに違いない」という方向に考えが向かいました。

それ以来、まだ彼女と会っていないのですが、今度会ったら人と話すコツを聞いてみようと思っています。性格も違うしフェデリカのようになれるわけではありませんが、何かしら、学べるものはあるはず。そして、こういったことを少しずつ積み重ねていくことで、私のコミュニケーション・スキルというものが上がっていくのではないかと考えています。

以上の3つを来年の卒業までにやれたらいいなと思っています。起業以外は「人生のやりたいことリスト」というわけではありませんが、その他にも例えば、チュニジアやアルジェリア、カナリア諸島辺りに旅行したい、体を鍛えたい、本を書きたいなど、やりたいことはたくさんあります。でもその前提として、家族が健やかに暮らせたなら何よりも幸せだなと思っています。



記事とは全く関係ないのですが、近くの愛用スーパー「メルカドーナ」の鮮魚コーナーです。それなりに新鮮に見えます。でも、生で食べたことはないです。日本と比べると、タイやヒラメは安く、サケは高いような気がします。メルカドーナはスペインでのシェアが24%の首位で、2位のカルフルの9%弱を大きく引き離しています。そのため購買力が強いようで、他のチェーンと比べると安くて質がいいように思います。



<あとがき>

先日、日本人のクラスメートの家族と一緒に、キャンプに行ってきました(ちなみに同じ学年の約190人いる学生のうち日本人は15人。男性11人、女性4人です)。キャンプと言ってもテント泊ではなく、いわゆる「グランピング(グラマラス・キャンプ)」という、少し贅沢な類いです。私がスペインに来る以前に日本でも流行っていたという認識があります。

今回はパルセロナから車で1時間ほど北に行った海沿いの町にあるキャンプ場で、「サファリテント」を借りました。イメージとしてはコテージに近く、床と室内を隔てる壁は木、外壁の部分と屋根は布製です。入り口前のウッドデッキには食卓とソファ。室内はとても清潔でもちろんトイレシャワーは完備、キッチンにはコンロの他、冷蔵庫や電子レンジ、湯沸かし器、食器や調理器具がそろっていました。

寝室は2部屋あって、片方にはダブルベッド、そして何ともう片方には私が生まれて初めて見る3段ベッドがありました。衝撃です。子どもより私が興奮してしまいました。

上から見るとL字型の造りで、1段目と3段目は同じ向き、2段目が90度ずれているので、ベッドを3つ重ねている割には意外と上部にスペースがありました。素晴らしいアイデアです。Googleで「3段ベッド」で画像検索した限りでは、同様のタイプのもは見つけられませんでした。少子高齢化の日本では3段ベッドの需要自体があまり多くはなさそうです。

水はかなり冷たかったのですが、せっかくなので敷地内のプールで遊び、夜はバーベキュー。私は火おこしが大好きなので、と言っても買って来た炭と着火剤を使うので難しいことはさほどないのですが、食べることよりは焼くことを楽しみました。

娘がまだ幼いので難しいですが、木の上にコテージがある「ツリーハウス」などにも宿泊してみたいです。でもいずれはやはり、グランピングカーを借りて旅行できたらと思っています。
文・写真/竹本恵

→ → → (次号に続く。最終回へ)

「報道人として生きて」

< 5回連載の第3回 >
~ 元時事通信社記者・高橋 守(66期)
“私家版・私の履歴書”より ~



新潟市の象徴・信濃川の「萬代橋」

第2章 文部省詰めめの記者に転じて

(第2章の 会報前68号続きから)

・教育関係の出版社から多くの原稿依頼

・朝日の山岸、産経の北井、読売の山田と交友

文部記者会では、当然のことながら他社の記者との付き合いが増えていく。先に触れた朝日新聞の山岸駿介、読売新聞の山田寛、産経新聞の北井良彦、TBSの谷口勝祐らとの交流が最も深かった。

山岸は、新潟日報から、永井道雄の人脈で朝日に移り、永井が文相を外れて間もなく文部記者会に。私は初中教育が得意だったが、彼は高等教育に深い知識を持っていた。社会部の編集委員を務めて退社した後、フリーで活躍した。がんで声帯を失うなどし、もう10年余りに亡くなってしまった。

山田は文章のうまい記者だった。東京大学教育学部卒で文教問題への思いが深く、文部省からも一目置かれていた。郵政省などを担当した後、記事審査の仕事に携わったが、胃がんで早く逝ってしまう。亡くなった時、夫人から電話があり、私に弔辞を読んでほしい、との話。これは山岸の方が適任だろうと、彼に任せただけだった。文部省から、お子さんたちのために奨学金を集めようとの申し出があり、私もお手伝いした。

北井は、前述したように82年の教科書検定問題のころ在籍した記者で、その後、警視庁キャップ、「正論」編集長、局長職、さらに常務取締役を務めた。2013年に膀胱がんのため亡くなった。

谷口は、東京外国語大学のロシア語を出ており、1982年のブレジネフ時代から、アンドロポフ、84年のチェルネンコの初めまでモスクワ特派員を務めた。早くから人工透析に頼るなど、健康問題に悩まされ、最も早くに逝ってしまった。

私のメディアでは多くの外部筆者にお世話になった。上記の山岸、北井はその面でも大切な存在だった。

今号はここ

<<目次>>

第1章 グラフ誌の記者として始動

◆第2章 文部省詰めめの記者に転じて
(68号会報から、継続)

◆第3章 新聞協会でのNIE運動旗振り役

◆第4章 家族と40数か国60数回もの旅

(70号会報へ、継続)

第5章 新国オープンでオペラの楽しみ

第6章 多くの健康問題で度重なる入院

第7章 128円48銭で無事誕生

第8章 師範の附属国民学校に入学

第9章 附属小・中学校時代の友人たち

あとがき

2017年6月日本プレス
センターの「アラスカ」にて



「報道人として生きて」5回連載<第3回> ~ 元時事通信社記者・高橋守(66期) ~ “私家版・私の履歴書”より



新潟市の象徴・信濃川の「萬代橋」

第2章 文部省結めの記者に転じて (第2章の 会報前68号続きから)

海外の教育事情を伝えるのは大事な柱で、各国の専門家をそろえて、健筆を振るってもらった。テレビ放送関係で親しくしていたのは、席がすぐ近かったこともあり、NHKの山本番、池上彰ら。山本は確か、午後9時台のニュース番組のキャスター、解説主幹、静岡放送局長を務めたが、66歳で亡くなってしまった。

池上は仕事熱心で、出色の記者だったと思う。解説委員になることを望んでいたが、94年から退職する2005年まで担当した「週刊こどもニュース」ですっかり人気者になり、今も活躍中。「週刊こどもニュース」は、教育担当解説委員を務めた早川信夫が発案したものだったと、早川から聞いた。臨教審のころ、NHKの政治部記者として在籍したのが影山日出夫。解説副委員長として「日曜討論」を担当していた2010年8月、局内の手洗いで首つり自殺してしまう。どうやら、うつが原因だったらしい。その10日ほど前、日本記者クラブのレストランで出会い、おしゃべりしたのだが、酒が入っていたこともあり、いつもと変わらず快活だった。衝撃の出来事だった。

17年には、前出の早川解説委員が脳出血で急逝、63歳の働き盛りだった。社の同期には、星野元男、藤原作弥ら。星野は政治部出身で、編集局次長に。彼の結婚式には私も出席したが、長く自民党副総裁を務めたメーンゲストの川島正次郎が、彼の読書家ぶりを紹介していた。オペアのエリアを歌うのが趣味で、発表会にも出るほどだという。

藤原は経済部出身で、解説委員長から日銀副総裁に。98年、速水優が総裁の時である。彼はもの書きとして知られており、82年『聖母病院の友人たち』で日本エッセイスト・クラブ賞を受賞。山口淑子との共著ということになっている『李香蘭 私の半生』(87年)は、ミュージカルになったらしい。

社の“商品”で10番目ほどに成長した『内外教育』を支えてくれた記者では、木津治矢(慶応義塾大学法学部卒、のちに奈良支局長など)、川上幸子(青山学院大卒、のちに『厚生福祉』編集長)らにたくにお世話になった。

第3章 新聞協会でNIE運動の旗振り役

私は、99年4月に後進に道を譲るため編集局総務を外れ、12月末、解説委員兼内外教育編集長のポストを最後に定年退職。後任は、経験豊かな小池幹夫である。退職金で、横浜駅から15分ほどの西区楠町にあるマンション2LDK1コマと、事務所1コマを購入し、家賃収入をその後の生活に役立てた。

社とは、翌2000年1月1日付で嘱託契約を結び、1年間、教育関係の顕彰事業、教育奨励賞事務局の参与を務めた。

同年11月、年末での退社を前に、たまっていた年次有給休暇を利用して家内、三越銀座店に勤めていた娘・かおりと、フランス縦断10日間の旅に出る。フランスには何回も行っているが、ニースからモンサンミッシェルまで、というのは初めてだった。すっかり楽しんで帰宅すると、日本新聞協会から何回も留守電が入っている。退職するそうだが、NIEの仕事を引き受けてくれないかというのである。NIEコーディネーター

というNIE運動の旗振り役である。ゆっくり原稿でも書いて、と思っていたのだが、想定外の展開に。

思考力養うケネディ家のエピソードを紹介

関連会議に出たり、機関誌に原稿を書いたりする一方、全国を歩いて、先生たちに新聞の活用について説く。長崎、佐賀などでは、県紙主催のイベントで講師を務めた。独立行政法人・教員研修センターでは、つくばの中央研修で2回講義をさせてもらった。小学校の現場、社会教育の現場、専門学校の、横浜のライオンズクラブ、友人に頼まれ新潟のロータリークラブでも話した。

「侵略・進出」をめぐる教科書検定のレクで実力を発揮した元文化庁長官の佐々木正峰。確か東京科学博物館館長の時だったと思う。住まいする埼玉県本庄市で小さな勉強会を開いていた彼に頼まれ、公民館で話をさせていただいたこともあった。

こうした機会に、よく紹介したのが、ケネディ家のエピソードである。ジョン・F・ケネディ大統領の母、ローズが著書『わが子ケネディ』の中で書いている話だ。同家は、44年に戦死した長男ジョン、知恵遅れだった長女ローズマリー、次男ジョンから、上院議員を務めた末子のエドワードまで4男5女。長子から末子まで、17も年の開きがある。

ローズは、いつも子供たちが食堂に集まる途中、必ず見そうな場所に掲示板を置き、新聞、雑誌の切り抜きをはっておく。食事の時にその日の話題として何かしゃべれるようにするためだった。「意見でも、コメントでも、質問でも、反論でもよく、当惑でも、不信感でも何かしゃべらせるようにした」決してポイントのない雑談に終わらせるつもりはなく、会話の流れに応じ、私がリードし、質問をぶついたり、論評したりしたという。子供たちの読解力、思考力、判断力などを養うための工夫、さすがケネディの母親である。

NIEコーディネーターのポストをぜひに、という毎日新聞OBにその席を譲り、顧問に退いてからのこと。教育課程の基準、学習指導要領への位置付けというのも、何とかしたい。教育課程審議会の梶田毅一・兵庫教育大学長に働きかけ、道筋をつけたのが大きかった。現在、小・中・高校の指導要領の総則に、情報活用能力の育成がうたわれ、新聞活用への期待が一段と高まっている。

同盟育成会や東博関連の財団で評議員に

日本新聞協会の仕事に携わるようになった2001年、財団法人・日本新聞通信調査会と、財団法人・同盟育成会の評議員を仰せつかる。いずれも時事通信社と共同通信社の関連法人である。

同盟育成会は、同盟通信社時代から、子弟の教育を応援するため、学寮の運営などに当たってきた文部省所管の法人だ。当時の理事長は共同通信の社長を務めた犬養康彦。1932年の五・一五事件で殺害された犬養毅の孫である。2002年に時事通信社が市ヶ谷に持っていた土地を購入、ここに学寮を建設するというプロジェクトがあった。この土地にはかつて時事の社員寮があり、私も新婚時代を過ごした地だ。いざ工事にというときに、この土地から江戸時代の瀬戸物のかけらが出てくる。本格的に埋蔵文化財調査をするということになると、工事が大幅に遅れてしまう。所管は東京都の教育庁だから何とかしてほしいというのだ。教育長は、教育奨励賞の審査委員をお願いしていた関係でよく知っている。厄介な話で気が進まなかったが、とりあえず電話をかけてみるとあいにく留守。秘書に依頼の内容を事細かに話しておいたところ、手際よく処理してくれ、それほどの文化財ではないということで、ことは収まった。この学寮は今、女子

寮として使われている。

同じ02年に、文部省で初中局長を務めた遠山耕平・教育研修センター理事長から電話がある。同センターは、筑波に大きな研修施設を持ち、全国的な教員研修を一手に引き受けている独立行政法人だ。その評議員にという話で、むろん引き受けさせていただいた。10年くらい務めたが、その間、東京学芸大学や上越教育大学の学長、会計検査院の院長OB、小・中・高校の校長会長のほか、安倍晋三首相の岳父で森永の社長を務めた松崎昭雄、役者の坪内ミキ子、新潟県女性財団理事長の大島煦美らとご一緒した。

2012年からお引き受けしているのが、東京国立博物館運営協力会の評議員。一般財団法人で、①展覧会の展示のための諸経費の助成、広報への協力②調査研究・資料収集に助する助成③ミュージアムショップの管理運営、などを目的にしている。会長は、古代ローマ史で名高い学者で文化庁長官を務めた青柳正規。文部事務次官やユネスコ大使を務めた旧知の佐藤禎一、西洋美術館館長の馬淵明子、海外の事情に詳しいマリ・クリスティヌらと、楽しみながら評議員を務めさせていただいている。

第4章 家族と40数か国に60回もの旅

海外旅行を始めたのは、1992年7月のこと。以来40数か国・地域に、60回くらい旅をした。いずれも家内と一緒。前述のように、時には娘・かおり、息子・卓哉と一緒にだった。

最初におっかなびっくり、家内と出掛けたのは、香港、マカオ、中国の珠海などである。珠海は81年深圳、汕頭、廈門市とともに経済特区に指定されたのだが、10年以上たっているのにまだまだ開発を始めたばかりという様相で、ホテルは施設こそ立派だったが、従業員に笑顔はなく、サービスは酷かった。

「ボナネ、ボナネ」と声掛け合うパリの年越し

次に、その年のクリスマスに出かけたのが欧州。夕方パリに着き、空港近くで1泊。翌朝、ギリシャのアテネへ。そこからイタリアに飛んで、ポンペイの遺跡などを見物。再びパリを訪れて、年越ししたのであった。ホテルは凱旋門の近くだった。深夜、シャルルドゴール広場に掛出てみると、シャンパンのボトルを手にした若者たちが、「ボナネ、ボナネ」(新年おめでとう)と声を掛け合って集まってくる。得難い経験であった。

訪ねた国々を思い出してみ。アジアでは、中国が、前記以外に5回ほど。上海滞在のほか、その周辺の蘇州、無錫、西湖などを観光、食の広州にも行った。北京滞在が2回。東北部(旧州)では1週間、列車に乗って、大連、旅順、瀋陽、長春、ハルビンなどを見て回った。ハルビンでは、ロシア風の街並みが特に印象的であり、アムール川最大の支流、松花江のほとりまで行ってみた。

韓国が5回。慶州、扶余、大田、全州、釜山などなど。ソウル近くでは水原、仁川などを訪ねた。初めてのとき、1910年に大日本帝国領となった朝鮮を統治するため、景福宮敷地内に設置した朝鮮総督府の建物が、まだ残っていた。戦後、国会議事堂、中央庁として使われ、私が訪ねたのは国立中央博物館の時代である。とりわけ、床のモザイクは手が込んでいて美しかった。しかし、韓国国民にとっては、わが国で言えば、皇居の御苑に当たるような場所にある目障りな建物であり、95年、金泳三大統領によって爆破解体されてしまった。

李氏朝鮮初期以来、周辺住民の生活排水が流入する下水道代わりの川として利用されてきたソウルの清溪川。2003年から05年にかけて、水質浄化対策や親水施設の整備を行った結果、市民の憩いの場として喜事によみがえった。全長6キロほど、2度訪ねたが、そぞろ歩きを楽しむにはまたとない場所だ。

「報道人として生きて」5回連載<第3回> ~ 元時事通信社記者・高橋守(66期) ~ “私家版・私の履歴書”より

NZ南島にコバルトブルーの湖が散在

タイは、リゾートを含め6回ほど旅した。94年7月、初めて行ったときは、バンコクから、一部航空機を利用してチェンマイまで。私も夫婦に、ガイドと専用の車が付く豪華版だった。旅路の宿泊は、ガイドや運転手を含め4人分の費用を負担したことになるのだが、それほどの負担感ではなかった。

チェンマイの家具屋で、彫刻を施した机(650ドル)、ホームバー(500ドル)がすっかり気に入り、衝動買い。横浜の港に着いたと連絡があり、家内が行ってみると、港から家までの運賃別払いで、検査費用や通関料などを含め8万7600円もの負担が加わり、えらく高い買い物になってしまった。この国のリゾートは、ブーケット島に2回、パタヤ、ピーピー島にも行った。

マレーシアは、ペナン島、ランカウイ島、コタキナバルなどのリゾートを含め5回ほど。ランカウイ島は、2002年、結婚を控えていた娘・かおりを誘って出かけたのだった。

コタキナバルへは2回行ったが、1回目の94年夏、家内が自転車で転倒してけがをする。以来、ひざを痛めて座ることができなくなってしまった。

ベトナムはホーチミン市などに。器用で働き者のなかなか好感の持てる人々に、今度はハノイにと考えていたが、もう無理だ。

ほかに、台湾、シンガポールにも小旅行。94年暮れの台湾では、台北帝大出の老ガイドが、『翠玉白菜』がある故宮博物院などを案内してくれた。南部の高雄では有名な円山大飯店に宿泊、評判通りの宿であった。

フィリピン、インドネシアは、それぞれ、セブ島、バリ島観光だった。2004年10月に行ったバリでは、迫力のあるケチャダンスが、思い出に残る。

オーストラリアには4回。うち2回は、すっかり気に入った西オーストラリア州のパスへ。スワン川のほとりを散策、近郊では固有のワイルドフラワーを見て回った。かわいい形のカンガルーポーは、花が手の形に似ていることから名づけられたという。スパイダーオーキッドは、繊細な形がよかった。シドニーに行ったときには、ワニやカンガルーの肉をこわごわ食してみた。

北東部クィーンズランド州のケアンズを訪ねたときのこと、帰路搭乗手続きをした際、きれいな海岸を見たいから窓側をと話したところ、しばらく待たされた末に、ビジネスクラスの席を指定してくれたのには驚いた。

ニューージーランドでは、南島の峡湾・ミルフォードサウンドでのクルーズが、ノルウエーのそれを上回る絶景であった。南島にはテカポ湖など、乳白色がかったコバルトブルーの美しい湖が散在している。これは氷河が溶けた水と、氷河によって削られたロックフラワーと呼ばれる岩石の一部が溶けることによって、生み出されるものだった。毎夜、天空のサザンクロスを目に収めることができたのもよかった。



カルト・ミュゼと地下鉄定期券でパリ見物

ヨーロッパは、最も多かったのがフランスで5回。パリの地下鉄は、便利に手軽に使えるようになった。99年12月、1週間の地下鉄バス、4日間のカルト・ミュゼを活用して、パリを堪能した。カルト・ミュゼは、美術館・博物館など入り放題。有名な施設だけでなく、例えば、楽器博物館、海洋博物館、下水道なども見に行った。近郊のベルサイユ宮殿に出かけ、大小二つのトリアノン宮殿も見物した。

クリスマスに、地下鉄・バスを乗り継いで出かけたのがパリ西部近郊のマルメゾン宮殿。ナポレオンの最初の妻ジョゼフィーヌが愛した住まいだ。バスの運転手に確認して下車したのだが、そこは関連施設で、門が閉じられたまま。さてどうしたものかと、しばらく人が来るのを待っていると、30分ほどでようやく英語のできるご婦人が現れ、道を教えてもらって事なきを得た。

モンサンミッシェルは2回。2000年に行った時の宿は、メゾネットタイプのしゃれたつくりで、私が2階、家内と娘が1階を使用。どの窓からもライトアップされたモンサンミッシェルが見えるという、素晴らしいだった。国内外を通じ、ここを上回る宿に出会ったことはない。18年に尋ねた時は、体力不足で、モンサンミッシェルに登ることさえできなかった。

パリの治安は悪い。1999年のこと、シャンゼリゼ通りの地下鉄駅で、エスカレーターに乗ろうとすると私と家内の間に強引に割り込んでくる者がいる。エスカレーターから降りようとする直前に、私の前の男がカードを落とし、拾おうとして、私を下ろさせてくれない。降りることができた後でおかしいと気づく。

私は長いトレンチコートを着ていたのだが、後ろに割り込んできた仲間がそれをたくし上げてさいふを奪ったのだ。とられたのは30フランほど。後の祭りだった。

もう1回は、翌2000年12月のこと。オルセー美術館の前の駅で改札を通ろうとすると、私が入っているトライアングルの中に、アラブ系の男が無理やり割り込んでくる。不正に改札を通るためにやっているのかと思ったら、私のポケットに手を入れてきて、小銭入れを奪おうとする。その手をしっかりと捕まえ、ついでに相手が持っていた切符を取り上げる。

その切符を取り返そうと追いかけてきたが、最後まで渡さなかった。この切符、年末まで有効の、泥棒稼業をするための「通勤定期」であり、ホテルのメイドにくれてやった。

イタリーは前記以外に2回。01年3月には、ベネチア、フィレンツェ、ミラノなどへ。ベネチアの宿はサンマルコ広場に近く、海に面していて、最高のロケーションだった。フィレンツェでは、定番の観光以外に、ベッキョ橋を西に渡ったところにあるビッティ宮を訪ね、1時間ほど絵画を堪能した後、広大な庭園で優雅な時間を過ごしたのだった。

その後、ローマに1週間滞在した時のこと。ビトリオ・エマヌエーレ2世記念堂近くに宿を取り、近所の美術館に入ったところ、映画「ローマの休日」の撮影で、最後の場面・記者会見場として使ったところでびっくり。暑さの中、泉の水を飲み飲みフォロローマノをたっぷり見物したほか、郊外のカタコンベ、カラカラ浴場などにも足を延ばしたのだった。



湖水地方超えるスイス・トゥーン湖船旅

スイスは、04年に2回。すこぶるよかったのは、7月末に行ったトゥーン湖の船旅である。イギリスの湖水地方などに比べ、その魅力は圧倒的であった。目的地のトゥーンの町は、散策しているだけで楽しい。この国は物価が驚くほど高く、日本で100円ほどの食べ物や500円というのには驚かされた。4千m級の山々と雄大な氷河を抱く美しい村ザースフェー。“アルプスの真珠”と呼ばれ、野生動物や高山植物の宝庫であるこの山岳リゾートに1泊した。宿で料金表を見ると、ベストシーズンは冬季スポーツを楽しめる冬。この時期の料金が一番高いのだ。

ドイツは4回。04年5月26日、ローテンブルクで城壁をほぼ一巡した。いただけなかったのは、ワーグナーとのかかわりでも知られる有名なノイシュバンシュタイン城で、文化財的価値は全くなかった。石造りではなく、鉄骨組みのコンクリート・モルタル製、文化遺産などとは程遠い代物なのだ。

98年12月にトルコ行く際、立ち寄ったのがフランクフルト。乗り継ぎ時間が長いことから、街に出ようと計画していた。客室乗務員に聞くと、この時期はクリスマス市を楽しめるという。3時間余りだったが、想像以上の収穫だった。帰路もたっぷり時間がある。もう一度フランクフルトの街へ出ようと言っていると、同じツアー客と一緒に連れて行ってくれという。20人余りをゲーテ・ハウスなどに案内し、感謝された。

オランダ、ベルギーは2006年春。オランダではフェルメールの『牛乳を注ぐ女』『手紙を読む青衣の女』があるアムステルダム国立美術館、同じく『真珠の耳飾りの少女』があるハーグのマウリッツハイス美術館、アムステルダムのゴッホ美術館などのほか、大学都市ライデンを訪ねたのが忘れられない。

ライデンはフェルメールを生んだ街である。ここでは、マクドナルドに立ち寄ったが、なんでもこの国はコロケが名物だといひ、コロケを挟んだハンバーガーを注文したのだった。

ベルギーではブリュージュ、ヘント(ドイツ語由来のゲント、フランス語由来のガンとも)などの街並みがことのほか美しかった。ヘントは、運河がめぐる街並みに、貿易で栄えた中世の趣を色濃く残している。聖バー大聖堂には、ヤン・ファン・エイクの有名な祭壇画がある。人々に囲まれて中央に立つ子羊の心臓から血が流れ出す様子を描いた作品が、鮮やかな記憶として残っている。

北欧は2002年5月、デンマーク、フィンランド、ノルウエー、スウェーデンへ。4か国中、ノルウエーが一番。ベルゲンへの山中で見たミュールダール滝は“ど迫力”であった。ストックホルム・ヘルシンキ間の船旅は、1泊2日の短いものだったが、忘れ難い。2004年3月、初めてオーストリア、チェコ、スロバキア、ハンガリーを訪れた。ウィーンでは、路面電車で中央墓地を訪ね、ベートーベンやブラームス、シューベルトなど大作曲家の墓を見て回った。ベートーベンゆかりのハイリゲンシュタットにも、バスなどを使って足を延ばしたのだった。

バルト3国、リトアニア、ラトビア、エストニアへは05年4月。城壁に囲まれたエストニアの首都タリン旧市街、最大の魅力は、入り組んだ石畳の路地をさまよいながらの街並み散策で、素晴らしい時間だった。中心部のレストランで、珍しい赤いビールを飲んだのが思い出される。

→ → → (次70号に続く。ご期待を)

半生を報道人として生きて 私家版・私の履歴書

2020年7月1日発行 著者 高橋守
発行所 高橋訓子
横浜市磯子区洋光台三丁目3番14号
sky60@kc5.so-net.ne.jp